kurashi@mbx.mainichi.co.jp

「誰かいる」安心感

利用が広がる シェアハウスとは。

NAVIGATOR

一軒家や集合住宅を複数の人が共有して住む「シェアハウス」。家族以外と共に住む生活スタイルや充実した設備、防犯面での安心感などを求め、若い社会人を中心に人気が高まっている。

東京都荒川区のシェアハウス「バウハウス南千住」。古民家風の木造2階建て、家具はアンティーク風、リビングには毛皮のじゅうたんやシャンデリアも備えられ、おしゃれな空間が広がる。

「ただいま!」。午後8時過ぎ、帰宅した入居者がキッチンに集まってきた。今日一日のことを話しながら、それぞれが夕食を作ったり食べたり。ゆるやかな時間が流れる。

ここに暮らすのは社会人の男女12人。個室は各6～8畳で、個室以外は共同だ。家賃は6万7000～9万2000円(共益費込み)と周辺のワンルームと比べ若干高い。だが空きが出ても常に満室となる人気ぶり。会社員の立花佳奈子さん(29)は今年3月に入居した。それまで都内で1人暮らし。「帰れば誰かがいるし、インテリアも気に入っています」と満足げだ。

外部に世話役の運営事業者

「シェアハウス」は「ゲストハウス」とも呼ばれる。賃貸住宅の一形態で、入居時の敷金・礼金が不要、多くは保証金と本人確認で入居できる。ルームシェアと異なるのは、外部に施設の運営・管理を行う運営事業者がおり、入居者同士のトラブル解決や交流を促す世話役も担うことだ。入居者は個室を持つが、リビングやキッチン、風呂、トイレは共同。個室にはテレビやベッド、冷蔵庫などの家具が事前に備え付けられているものも多い。

設備充実、おしゃれなインテリア

シェアハウス専門のサイト「ひつじ不動産」(http://www.hitsuji.jp/)を運営する「ひつじインキュベーション・スクエア」(東京都渋谷区)によると、シェアハウスの大半は首都圏に集中。400軒を超え(07年調査)、年々増加傾向にある。入居者の比率では日本人女性が最も高く、年齢層では20～30代の社会人が最多という。北川大祐社長は「十分な収入がある人がコミュニティーを求めてシェアハウスに魅力を感じている」と話す。

充実した設備とコミュニティーに力を入れる物件もある。社員寮だった6階建てビルを改装した「シェアプレイス五反野」(足立区)は北欧風インテリアで共用スペースにはダーツボードや図書コーナーも。家賃は6万3500～7万6500円(共益費込み)で、48室は常に満室だ。

運営するのは東京電力グループの「リビタ」(渋谷区)。担当の菊地敬治さん(52)は不定期にハウスを訪れ、入居者同士の交流企画も仕掛ける。「人とのかかわりを求めて来る人が多い。女性には防犯面からも魅力的なようだ」と話す。

首都圏以外にもシェアハウスはある。会社員の三笠大道さん(31)は、神戸市長田区で一軒家6室の女性専用シェアハウスを管理運営する。家賃は3万5000～4万5000円(共益費込み)。留学生も入居中で、公用語は英語だ。「関西にシェア形態の物件はまだ少ないが、違う価値観に触れられるなど魅力は大きい」と三笠さん。シェアハウスを知ってもらおうとブログ(http://plaza.rakuten.co.jp/tabibito02/)も設けている。

【細川貴代、写真も】

物件探しはネットで

+α

シェアハウスの物件探しはインターネット情報が主だ。学生向けの不動産を扱う「英貴　東京学生情報センター」はシェアハウス専用サイト「みんなのいえ」(http://www.share-house.jp/)を運営。「Re Good Japan」(東京都千代田区)はルームシェアの専用サイト「シェア太郎」(http://www.room-share.jp/)を運営。紹介のみでなく入居者支援にも力を入れる。

物件選びは慎重に。安全な物件を選ぶには①法人管理の物件がおすすめ。個人管理でも運営体制がきちんとしていること②必ず契約前に物件を見る。値段や立地よりオーナーの信頼性や、雰囲気が自分に合うかどうかで選ぶとうまくいく③セキュリティーがしっかりしている――の3点がポイントだ。

▲他人と一緒に住むシェアハウス。「バウハウス南千住」では夜に自然と入居者がキッチンに集まり、会話が始まった

▼リビングに北欧テイストがあふれる「シェアプレイス五反野」。おしゃれや高級感のある物件も増え人気だ

NEWS NAVIGATOR
なるほドリの質問
毎日新聞社編
ニュースの「ここが分からない」をスッキリ解消
本紙朝刊3面の人気キャラ「なるほドリ」の素朴な質問に、第一線記者たちが答えます。
なるほドリ!と唸ってもらえる絶好の回答をもらうと絶賛の「ニュースQ&A」。
定価1260円(税込)
978-4-620-31941-4
毎日新聞社